

体育科・保健体育科「球技系・ネット型・バレーボール」

オリンピックとの交流の様子

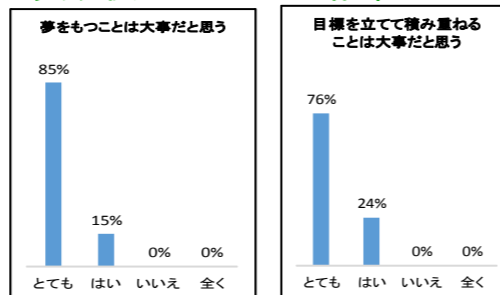
運動・スポーツを見る、行う、支える、知る子どもへ ～球技系②～

期待できる効果

●こんな子どもの姿を期待できます

- 一流の選手と一緒にプレーすることで、特性を深く味わう子ども
- 自ら目標をもって挑戦し、あきらめずに粘り強く取り組む子ども
- オリンピックやスポーツへの関心を高め、積極的にかかわる子ども

●実践後のアンケート結果



1 GTとバレーボール (小学校)

体育科・ネット型「バレーボール」(第4・5・6学年)の学習で、元オリンピックの山本選手を講師に招聘しました。まず、学習の動機付けとして、事前に校内掲示「オリンピック・パラリンピックコーナー」に講師のプロフィールや競技について紹介したり話題提示したりしました。GTと出会い、実際の高さ2.43mでスパイクやジャンプサーブの実演を見せていただいたり、目標をもち、続けることの大切さをお話しいただいたりしました。また、オーバーハンドやアンダーハンドの基本的な技術指導をいただいたり、チームでのパスゲームを楽しんだり、山本選手のスパイクのレシーブ体験をしたりしました。小学生の子どもたちにとって、痛みや恐怖を感じやすい正規のバレーボールを使用したにも関わらず、果敢にもボールに向かっていく姿がみられ、バレーボール特有の楽しさに触れながら興味・関心を高めることができました。

2 GTとバレーボール (中学校)

保健体育科・ネット型「バレーボール」(第3学年)の学習で、元オリンピックの山本選手を講師に招聘しました。事前に12時間のバレーボールの学習を終えた後、GTに来ていただき特別授業をしました。山本選手から技術指導をいただき、山本選手との対人パスや一列パス、グループ対抗パスゲーム等を行いました。ゲームでは、10人程度のグループで話し合いを交えながら、円陣パスで20回続けることができるかどうか、どのグループが速くクリアできるか競い合うことを楽しみました。その後、スパイクの指導や各クラスの代表チームと山本選手チームで試合を楽しみました。



ココがポイントです!

- ①GTと綿密に打合せを行い、子どもの実態やねらいに応じた指導を依頼することが大事です。
- ②担任や教科担任が主となり、GTとチームで役割分担を明確にした指導が必要です。



▲オーバーハンドパスを指導する山本選手



▲山本選手のスパイクをレシーブする子ども

▲グループでの話し合い



▼試合の様子

実践後の子どもの感想

- 山本選手のスパイクはとても速くて凄かった。それをレシーブするのがとても楽しくて、もう一度やってみたいです。(小学校)
- 山本選手の話の中で「負けることが大事で、悪いところを次の試合でやり直したい」というところが強く心に残りました。これからは、失敗を恐れずに頑張ろうと思います。(小学校)
- 山本選手のスパイクにブロックで指をかすめただけで痛かった。ジャンプサーブやスパイクの球が凄く速く、間近で見ることができてうれしかった。(中学校)
- オーバーハンドでボールが天井まで届くのを見たのが、凄く印象に残った。空中の一瞬の間にスパイクのコースを変えているのを見て凄いなあと思った。(中学校)
- 苦労した人や目標を達成した人から話を聞くことは説得力があった。オリンピックに興味があった。また、話を聞いてみたい。(中学校)